

漆芸美術館だより

77
2016.05.09

漆芸の未来を拓くー生新の時 2016ー	2
輪島沈金業組合創立100周年記念展 彫りの道 ー気鋭の沈金ー	3
漆の小箱 19「職人と道具ー沈金刀ー」	4
手作り体験リニューアル、開館 25 周年 T シャツ、職員人事異動	5
INFORMATION	6



漆芸の未来を拓く―生新の時2016―

会期 5月14日(土)～6月27日(月) *会期中無休

大学や大学院で漆芸を学んだ皆さんの作品を展示する本展覧会は、2008年に始まり、第9回を迎えます。今回は新たに沖縄県立芸術大学を迎えた8つの大学から40点あまりを展示します。日本固有の文化として漆芸を学ぶことはもちろんですが、その歴史をひも解くうちに漆芸品やその技術等を通じた海外とのつながりを意識してきた若者も少なくないでしょう。制作を通じて取り組んだ課題の中に、そのような一面がうかがえる作品をご紹介します。

かつて、日本の漆芸品はヨーロッパにおいても南蛮貿易によって人気を博し、絢爛な装飾を施した設えが西洋の教会にもたらされました。漆芸品は時代や国を越えて、人々に神聖な印象を与えてきたのでしょうか。「旧約聖窓」(表紙写真)はキリスト教の聖典・旧約聖書をモチーフに、主に螺鈿技法で描かれた作品です。キリスト教会のステンドグラスに似せ、それぞれの場面が円形に配置されています。窓の中の世界は緻密にデザインされた紋章のようで、その内容を知らずとも、荘厳な装飾と貝の輝きに見入ることができでしょう。

「胡蝶の夢」(写真上)はヨーロッパの金

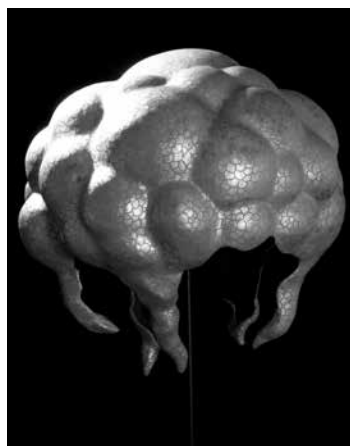
唐革からかわという技法を再現した作品です。もともとは江戸時代前期に輸入された、皮革に装飾を施した高級壁装材です。その人気は西洋趣味とともに高まり、鎖国後は和紙に金箔や漆の彩色を施した代用品(金唐革紙)が開発されました。本作は、本来の金唐革と同様に牛革に刻印し、漆による彩色を行うことで独自の技法としています。芍薬しやくやくと月桂樹げつけいじゆのパターンとし、乾漆技法と組み合わせたドレスに仕立てられています。日本人の西洋へのあこがれが、華やかな装飾を身にまといたい女性の願いに重なるようです。



齊藤裕希「胡蝶の夢」東北芸術工科大学卒業

樹液を用いた塗装文化は広くアジアに分布しています。「縁」(写真下)は現地で学んだタイの漆芸技法を取り入れた作品です。装飾に用いられたタイの箔絵は文様以外の部分を

あらかじめマスキングした後に、箔を押し余分な金を洗い流す独特のものです。乾漆技法による造形は人と人とのつながりを抽象的なモチーフとしたもので、無限に広がりながらめぐる縁を思わせます。自らの学びの場を開きつつ、海を越えて文化や人をつなげる姿勢は、漆芸作品の制作を介した新しい交流の到来を予感させてくれます。



畦地拓海
「縁」
富山大学大学院修了

会場にはこの他にも、出品者の若々しい感覚に満ちた作品が集結します。また、左記ギャラリートーク並びにシンポジウムでは、彼らの制作に対する思いについて意見交換を行います。この機会にぜひ足をお運びください。(寺尾藍子)

6月11日(土) *当日無料開放
ギャラリートーク 13時30分～14時30分
シンポジウム 14時40分～16時30分
コーディネーター
小林伸好氏(東北芸術工科大学教授)

輪島沈金業組合創立100周年記念展「彫りの道―気鋭の沈金―」

会期 7月2日(土)～9月4日(日) *会期中無休

漆の塗膜面に刃物で彫って文様を表す「沈金」技法は、江戸時代から輪島で独自の発展を遂げてきました。本展覧会では、輪島沈金業組合の100周年にあたり、江戸時代から現代に至るまでの輪島沈金の足跡をご紹介します。

沈金の歴史は古く、中国の元・明時代に行われた「鎗金」という技法の影響のもとに日本で発達したものと考えられています。国内で沈金が行なわれるようになった時期は定かではありませんが、少なくとも南北朝期には行われていたことが分かっています。



老松沈金四段重
弘化5(1848)年

輪島を含む大屋荘の遺跡からは室町時代の線刻椀が出土していますが、近世の沈金が開されたのは享保年間(1716―36)頃といわれています。寺社大工で佛壇師であった城五郎兵衛が輪島沈金の祖とされ、その子である専助が京都で絵画を学び、輪島沈金の基礎をなしたと伝えられています。江戸期の作例は盆や杯、重箱などの生活雑器に沈金を施したものが多く残されています。弘化5(1848)年に製作された「老松沈金四段重」(写真上)は、黒の重箱の面に側面に松を中心とした植物が描かれており、線彫りを駆使して描かれた密度の高い作品です。

明治・大正期には沈金がさらに盛んになり、道具や技法などが改良され、沈金の表現の幅が広がっていきます。そして、輪島漆芸の美術工芸化が推し進められ、沈金を用いて美術作品を制作する作家たちが現れました。前大峰は、線彫りが中心であった従来の沈金に加え、毛彫り、片切彫りなど多彩な技法で立体的な沈金を完成させ、沈金の重要無形文化



沈金夕月文盆／前 大峰
昭和38(1963)年

財に認定された人物です。前大峰作の「沈金夕月文盆」(写真右)は、スギの枝の隙間から覗く三日月を丸盆の中に見事に納めた構図で、幻想的かつモダンな世界観を表現した優品です。

輪島沈金業組合は大正5(1916)年に創立され、職人から作家まで多くの沈金師が所属し、各々が切磋琢磨して輪島沈金の技術を発展させてきました。時代毎に表現方法は変化していきますが、製作にかける熱い思いは共通です。輪島沈金に携わる人々の意気込みを、作品から感じ取っていただければ幸いです。(竹村祥子)

漆の小箱 19

職人と道具 — 沈金刀 —

沈金の彫りを施すための刃物のことを「沈金刀」といいます。沈金を用いた製品は、輪島以外にも秋田県の川連漆器や沖縄県の琉球漆器など、様々な漆器産地で製作されています。輪島とこれらの地域では、沈金刀の形が異なっていることをご存知でしょうか。

輪島では沈金刀のことを「鑿」と呼んでいます。鑿は金属棒を半分に割ったような形をしており、様々な形状の刃先を持ちます。刃先が丸い形状をした「丸鑿」がもつとも一般的で、これ一本でなめらかな線を描くことも、力強い点を打つこともできる万能刀です。

これに対し他の地域では、鉤状の刃先をした沈金刀を用いることが多いようです。



輪島沈金の丸鑿

左の写真は琉球沈金で用いられる沈金刀で、主に下の「ぜんまい刀」で彫っていきます。ぜんまい刀は、時計の動力として使用されていた「ぜんまいバネ」を刃物状に作り替えたもので、沈金師が自作しています。また、川連では「カンナ」と呼ばれる鉤状の沈金刀が使われています。



沖縄の沈金刀
(上:丸刀、下:ぜんまい刀)
沖縄県工芸振興センターHPより転載

沈金刀の形状の違いによって、刃を運ぶ方向も異なっています。鉤状の沈金刀は手前に引いて彫り、これは中国宋・明代の鎗金(沈金)技法から続く運刀法です。輪島沈金の鑿は押して彫る「突き」の技法を主流にしており、引いて彫るのに比べて深く力強い線を彫ることができるのが特徴です。

輪島沈金では、江戸時代には先が尖った鑿を用いていたと考えられていますが、明治30年頃に丸鑿などが使用され始めると、彫りの表現の幅が飛躍的に広がりました。鑿には他

にも種類があり、斜めの刃先で力強い線を彫ることができる「片切鑿」や、平らで幅広い刃先で漆塗り面をこそぎ取る「こすり鑿」、針のような先端を持つ「渦切鑿」などを目的に応じて使い分けています。また、同じ名前の鑿であっても、沈金師ひとりひとりが自分の仕事に合わせてオリジナルの鑿に変化させています。



左から片切鑿、こすり鑿、渦切鑿

7月4日から開催の「彫りの道—気鋭の沈金—」では、どんな鑿を用いて絵が描かれているのか、彫り跡まで注目していただければ幸いです。みなさまのお越しをお待ちしております。

また、会期中には沈金師による製作実演や沈金体験教室などを予定しています。輪島沈金の技を間近でご覧いただけるまたとない機会です。詳細は当館HPでご確認ください。

(竹村祥子)

手作り体験リニューアル

当館では、さまざまな手作り体験プランをご用意しています。展覧会を見てから実際にものを作ってみることで、漆塗りをより身近に感じていただきたと考えています。今年度から「沈金色付け体験」「漆シール体験」を追加し、更なる充実を図りました。

「沈金色付け体験」では、輪島で発展してきた沈金技法の彩色工程を体験していただきます。あらかじめ文様が彫られたお箸に代用漆（合成塗料）をすりこみ、金属粉で色をつけていきます。お箸が色鮮やかに変化していく様をお楽しみください。



沈金色付け体験

体験料 620円+割引入館料
(体験のみ…820円)
所要時間 15分

「漆シール体験」では、天然漆をシール状

に加工したものを切り抜き、好きな器物に貼りつけます。(食器など水に濡れるものには貼ることができません。)お手持ちの携帯電話などに貼りつけることもでき、お子様から大人の方まで本物の漆に親しんでいただけます。



漆シール体験

体験料 500円+割引入館料
(体験のみ…600円)
所要時間 15分

この他にも「蒔絵ストラップ体験」(体験のみは210円)と「金箔箸体験」(体験のみは820円)をご用意しております。いずれも入館料とセットでお得な値段で楽しんでいただけます。詳細は当館HPでご確認ください。お申し込みをお待ちしています。
*希望日の7日前までにご予約下さい。
*20名を超える団体の場合はお早目にご相談ください。

開館25周年記念Tシャツ

今年の当館オリジナルTシャツ・ポロシャツは、開館25周年にちなんで25人のわんじまを並べたデザインになりました。背面の首元には25周年ロゴがワンポイントで入っています。5月半ばからミュージアムショップなどで販売します。ぜひお買い求めください。



【職員人事異動】

石川県輪島漆芸美術館では、4月1日付けで1名の人事異動がありました。

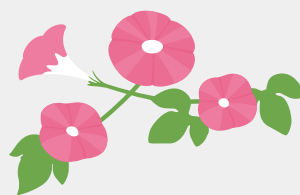
事務局長兼総務課長

(輪島市派遣、総務部付参事) 椿原 修

 INFORMATION

イベント案内

- 🍷 輪島市民まつり2016協賛 特別無料開放**
 日時：6月4日(土)・5日(日)
 *上記の期間中はどなた様も展覧会を無料でご覧いただけます。
 - 🍷 輪島市いけばな協会 花展**
 日時：6月4日(土)・5日(日)
 主催：輪島市いけばな協会
 会場：講義室 *入場無料
 - 🍷 ふれて感じる、うるしの温もり企画**
 日時：①7月9日(土)～13日(水)
 ②7月29日(金)～31日(日)
 会場：講義室、エントランスホールなど
 輪島塗製品販売、職人実演、体験など、実際の輪島塗に触れて楽しめます。
 詳細は当館HPでご確認ください。
 - 輪島沈金業組合見本展**
 日時：7月9日(土)～13日(水)
 主催：輪島沈金業組合 *入場無料
 - 🍷 2016年度 第1回漆文化セミナー**
 「總持寺祖院所蔵の桃尾長鳥鎗金手箱と古漆器に見る沈金技法の変遷」
 日時：7月16日(土) 13:30～
 講師：小池富雄氏(鶴見大学文学部文化財学科教授・文化庁文化審議会専門委員)
 会場：講義室 *受講無料
 - 🍷 日本刺繍展 一打敷の製作と修復**
 日時：8月1日(月)～7日(日)
 会場：エントランスホール
 主催：石川県輪島漆芸美術館友の会
 協力：刺繍の会 *入場無料
 - 🍷 彫る技に挑戦！一沈金体験教室**
 日時：8月6日(土) (仮)
 会場：講義室
 - 🍷 キッズ作品鑑賞会**
 日時：8月7日(日)
 会場：展示室 *入場無料
- お問い合わせ 0768-22-9788
 いずれも詳細が決まり次第当館HPやチラシ等でお知らせします。



TOPICS

当館キャラクター「わんじま」が、今年も輪島市民まつりのパレードに参加します。2人のわんじまに会えるのは、6月4日の倭の島交流大パレードだけ！ぜひ見にお越しください。



休館日

2016/6/28(火)～7/1(金) 展示替え
 2016/9/ 5(月)～9/9(金) 展示替え



『漆芸美術館だより』第77号
 2016年(平成28)5月9日

編集・発行 石川県輪島漆芸美術館
 〒928-0063 石川県輪島市水守町四十苅11番地
 TEL.0768-22-9788 FAX.0768-22-9789
<http://www.city.wajima.ishikawa.jp/art/>